

第8回 3社で取り組む残蠟の「ルミナサイクル」

SDGsという言葉が日常的に聞かれるようになってきた。これからの企業活動には、SDGsへの積極的な取り組みも重要になる。本連載では、実際にSDGsに取り組んでいる企業に、導入の経緯や効果、意識の変化などを聞いていく。「ルミナサイクル」は、ローソク製造・卸売の三清本店、光徳石材、キャンドルクリエーターの仙名るみ氏と、立場の異なる3社で立ち上げた活動。SDGsの12番目の目標である「作る責任 使う責任」に焦点を当て、寺院から回収した残蠟をアップサイクルし、活用を広めている。立ち上げの経緯や活動立ち上げにおける留意点、活動内容など、それぞれの立場から話を聞いた。

発端はお寺からの残蠟

寺院で使った残蠟に新たな価値を加え、さまざまな立場からSDGsに参画する活動「ルミナサイクル」。この活動は、“赤玉錨ローソク本舗 製造・卸売”三清本店の竹内真由香氏がお寺から聞いた悩みから始まった。お寺で行われているお香の会に参加していた竹内氏は、法要で使う和蠟燭は、実は半分しか使っていないと聞いて衝撃を受けたという。調べてみると、大きな和蠟燭は、一度の法要では灯し終えることなく、法要のたびに置き換えなければならない。使いきれずに残った部分は非常用として保管しているものの、溜まる一方だという。

この残蠟をどうにかして生かしたいと考えた竹内



氏は、まず、自社協力会社、工業会等に回収を呼びかけたが、再生コストがかかりすぎる等の問題があったため、別途、活用の道を探ることになった。その過程で、キャンドルクリエーター・仙名るみ氏を知った。

仙名氏は、2020年に起きた熊本豪雨災害の被災によって使えなくなった蠟燭を活用したアップサイクルキャンドルをチャリティ販売、売上を寄付するなど、被災地支援を行っていた。資源の再活用に支援という付加価値をつけることに意義を感じていたという。

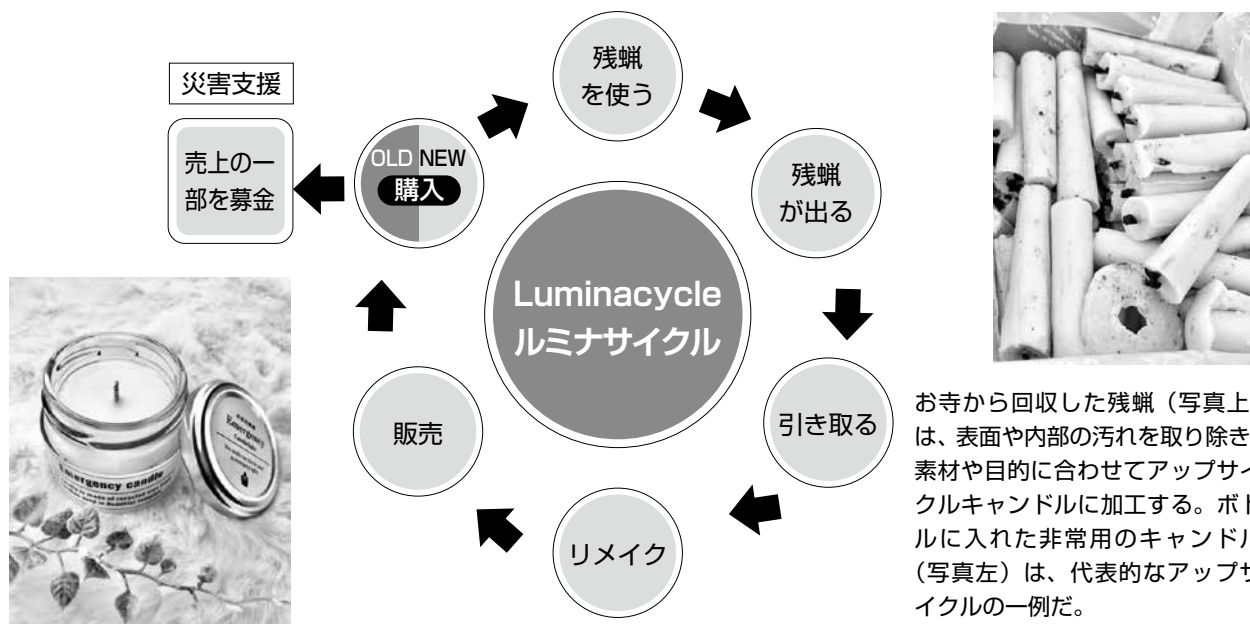
竹内氏は仙名氏を招き、一緒に活動を開始した光徳石材の山田信子氏のほか、寺院や大手キャンドルメーカーからのアドバイザーも加えてミーティングを実施。終活カウンセラーとしてお寺と一般の方をつなぐ活動もしている山田氏は、この活動はSDGsにつながると直感。「持続可能という考え方は、終活や、老人の孤独や孤立の問題の解決の糸口にもなる」と考えたという。

こうして、「お寺とSDGsについて考える会」が結成され、実際の活動に結びつけるための議論が開始された。広報活動を担当する山田氏の提案により、SDGs12-5「作る責任 使う責任」に焦点を当てる

ルミナリサイクルプロジェクトの経緯

- | | |
|-----------|---|
| 2020年 | 仙名るみ氏が自身のSNSからの発信で、リメイクキャンドルリレーを始める。その後、寺院の残蠟リメイクや、熊本豪雨災害の被災地の支援なども開始 |
| 2022年 9月 | 三清本店の竹内真由香氏と光徳石材の山田信子氏を中心に、残蠟の活用過程での仙名氏へ依頼 |
| 2022年 10月 | 三清本店会議室にて、竹内・山田・仙名氏に加え、安泉寺やローソクメーカーなどアドバイザーが加わってミーティング、試作品発表 |
| 2023年 10月 | キャンドルナイト『Wave of Light in Nagoya』チャリティー活動協力、アップサイクルキャンドル製作 |
| 2023年 | 年内は東海・近畿地方のお寺やイベント等でオリジナルキットを使った「ルミナサイクルキャンドルワークショップ」を月3〜4度実施予定。 |

「ルミナサイクル」のイメージ



ことで、活動の目的を明確にすることが決まった。

2023年7月には初回のワークショップを実施し、年内にも数回のワークショップを開催する予定だ。

“至れり尽くせり”のSDGs活動

現在は、竹内氏が企画、山田氏が広報、仙名氏がワークショップ用キットの考案と提供販売、指導と役割を分担しながら活動に取り組み、広めている。活動内容も、残蠟の回収、アップサイクルキャンドルの販売、法要用・非常時用蠟燭の提案、アップサイクルの過程を体験するワークショップの開催、チャリティイベントでの販売と点灯、売上の一部を寄付や運営に役立てるなど、実に多角的だ。それが、参加者が親しみやすくなる効果にもつながっているという。

「SDGsに関しては、『何をやったらいいかわからない』という声を多く聞きます。そこでこの活動では、『作る責任 使う責任』に焦点を絞り、残蠟を減らすという目標を掲げることで、活動内容を精査していきました。そのうえで、簡単にSDGsに参加できる、これなら自分にもSDGsに取り組めると思っていただけよう、ワークショップに参加するだけでなく、残蠟の提供、アップサイクル商品の購入やSNSでの拡散など、どの過程にかかわってもSDGsに参画できるよう、『至れり尽くせり』にしてみました」（山田氏）

「私のSDGs宣言書」で得られる達成感

活動を行ううえでは、課題や懸念もあった。蠟燭の製造卸売を行う三清本店としては、残蠟の回収によって新しい商品が売れなくなるかもしれないのだ。しかし、社会貢献という付加価値に目を向けることで、自社事業との競合の問題を解消した。

リメイクにおける費用面も大きな課題だ。だが、チャリティ販売や寺院の記念品とすることで、寺院やボランティア団体などからの協力や購買のルートを開拓できるようになった。

ワークショップにおける課題もあった。「誰でも簡単に」「適切な時間内に」「火を使わずに」参加できるという条件をクリアするため、試行錯誤。その結果、着色・着香したそばろ状の残蠟をビンに入れるキットを開発。色の組み合わせで参加者自身の個性を楽しめるので、工程は簡単だが、楽しさややり

それぞれのかかわり方

1. 残蠟を引き取る
2. アップサイクルする
3. アップサイクル品を購入する
4. ルミナサイクルのワークショップを開いてこの活動を知ってもらう
5. SNSなどを通して広めてもらう
6. 売上の一部を被災地支援などに寄付する
7. 残蠟のご提供
できることから、できる時に

「ルミナサイクル」ワークショップの様子



ワークショップの冒頭では、講義の時間も設けて活動の趣旨を伝えている



キットを使って、誰でも簡単に体験できるかたちに



体験終了後には『私のSDGs宣言書』に記名して、参加した意義を実感できる工夫も



ルミナサイクルのワークショップで作ったアップサイクルキャンドルを点灯してもらう試みも行っている

がいが得られるようにした。また、『私のSDGs宣言書』を用意し、体験前には講義の時間を設け、体験後には宣言書に参加者自身で氏名を書き入れてもらうことにした。このステップを加えたことで、活動への理解も深まり、達成感がより得られるようになったという。

さらに大きな課題は、活動をいかに持続するかだ。アップサイクルにはコストと手間がかかるため、アップサイクル品の購入のほか、ワークショップでのキット販売などにも注力していきたいという。仙名氏は、「仏前で僧侶がお経を読み上げ、祈りがこもったありがたい『灯明のお下がり』なので、家庭で使いやすい形状に変え、その価値を感じていただければ」と語る。

また、よりよい状態で残蠟を回収したいという課題もある。ゴミの削減だけでなく、灯明のお下がりを最後まで使う意義を伝え、湿気の少ない場所できれいに保管していただくことでよりよい素材になることを伝えていくということだ。

アップサイクルキャンドルを全国に

これまでに行ったワークショップは、寺院からの関心も高い。今後も新しい活用アイデアも考えながら、お寺と檀家や一般の方に広げていきたい、と竹内氏は話す。

「三清本店としては、SDGsの実践や啓蒙に加え、蠟燭や線香を仏様に供える意味や使い方、香りや灯火の効用も伝えて、親しみをもってもらいたいと考えています」（竹内氏）

ワークショップやイベントへの参加も、引き続き積極的に実施する。仙名氏以外にも竹内氏や山田氏がワークショップでの指導を行えるような仕組みを作り、現在活動中の東海・近畿地方だけでなく、全国に活動を拡大していきたいと三氏は話している。また、被災地支援のボランティア団体などを通じて、アップサイクルキャンドル・非常時用キャンドルの活用提案やチャリティ販売も続けていく予定だ。

立場や専門分野が異なる人たちが集まり、協力したことで実現したこの活動。今後のさらなる展開や、この事例を参考にして新たな活動が生まれることに期待したい。



残燭から作る キャンドルの例

ワークショップで使用するエマージェンシーキャンドル作りの体験キットは、着色した残燭をそぼろ状にすることで、手軽に体験を楽しめるようにした。

和燭燭をアップサイクルしたエマージェンシーキャンドル。和燭燭の朱色をそのまま使用して、柔らかな淡い朱色のキャンドルになった。



残燭を提供したお寺からの依頼で、キューブ型のアップサイクルキャンドルに。記念品として使用された。



和燭燭の灯心は、和紙と井草でできているため、着火剤としての活用も検討中だ。

「ルミナサイクル」を動かす3人の女性たち

●竹内真由香（たけうち・まゆか）

有限会社三清本店 香り事業部・企画

有限会社三清本店

愛知県名古屋市中区松原 2-9-5

TEL：052-321-2866



「実際に対面して何気ない話を交わすところにもものごとの本質をつかむヒントがあると、この活動を通じて気づきました。また、自社だけでは実現できないことも横のつながりで形にできるので、これからもつながりを大切にしていきたいですね」

●山田信子（やまだ・のぶこ）

有限会社光徳石材 山田石材合資会社

広報・企画、終活カウンセラー 墓石販売

霊園管理 墓じまい メンテナンス／

お寺にもっと人を『寺活』を進める「お寺パートナー相坊」

有限会社光徳石材

愛知県名古屋市名東区つつじが丘 601

TEL：052-773-1480

山田石材合資会社

愛知県名古屋市千種区山門町 1-60-2

TEL：052-751-4675



「ルミナサイクルの活動の話をすると、お寺さんとの話題も広がるんですよ。我が社のSDGsについて考えてもらうきっかけ、お寺の活動を地域に広げるきっかけ、作業を福祉作業所などに依頼して働きがいをもつことにともなげられる可能性があると考えています」。

●仙名るみ（せんな・るみ）

アトリエ・キャンドルルミエール・目白

キャンドルクリエイター

【<https://baby-baboo.wixsite.com/lumiere>】



「今まで捨てられていた燭燭が、誰かの癒しとなり、誰かの助けとなるようなハッピーサイクルを作ることが狙いです。また、アップサイクルキャンドル以外にも残燭の用途は広がっていていると思っているので、可能性を探っていきたいです」

●このプロジェクトについての問い合わせ

広報担当：山田信子（光徳石材）

TEL：052-773-1480

●残燭回収についてのお問い合わせ

クリエイター：仙名るみ

（アトリエ キャンドルルミエール目白）

右のQRコードより

